

日本史学・歴史教育から見た、奄美大島要塞跡の価値

聖心女子大学 土田宏成

◎日本の近代史を学び、考えるための資料としての活用

- ・身近な場所から世界や日本の歴史を考える。
- ・なぜ奄美大島に要塞が建設されたのだろうか？
- ・近代日本の戦争は、奄美大島にどのような影響を与えたのだろうか？
- ・ワシントン海軍軍縮条約（1922年）は、奄美大島にどのような影響を与えたのだろうか？

以下では、世界や日本の動きと、それが奄美大島に与えた影響について、「奄美大島要塞跡」を中心とする軍事遺跡から考えてみる。

1、日清戦争（1894-95）と石炭庫・水溜の設置

- ・1891（明治24）年、奄美大島における最初の軍事施設である海軍の石炭庫が久慈に置かれる。
- ・1894～95（明治27-28）年、日清戦争。
- ・1895（明治28）年には、久慈にレンガ造の水溜も建設され、材料として日清戦争時に旅順で手に入れた戦利品のセメントが使われた。

2、日露戦争（1904-05）と海軍望楼の設置

- ・海軍は、見張り、通信、気象観測を行う海軍望楼を全国の海岸要地に設置していた。
- ・1904～05（明治37-38）年、日露戦争。
- ・奄美大島では、海軍望楼が日露開戦前に皆通埼、開戦後には曾津高埼、笠利埼に設置された。

3、第一次世界大戦（1914-18）と要塞の建設

- ・日露戦後、日本海軍はアメリカ海軍への対抗を目標に軍備を整えていったが、その際、艦隊の根拠地としての奄美大島（大島海峡）の重要性が認識された。
- ・1914（大正3）年に第一次世界大戦が勃発、日本も参戦し、ドイツ領の南洋諸島を占領すると（戦後、日本の委任統治領となる）、その重要性はさらに高まった。
- ・第一次世界大戦後の1919（大正8）年には、奄美大島の防備を強化するため、陸軍の要塞の新設が決まり、1921（大正10）年7月から工事に着手した。

4、ワシントン会議（1921-22）と要塞工事の中止

- ・第一次世界大戦中・戦後における日本のアジア・太平洋地域への勢力拡大に対して、アメリカは同地域における新たな秩序を形成するため、関係諸国に呼びかけ、1921～22年（大正10～11）にワシントン会議を開催した。
- ・会議では、海軍軍縮、極東問題、太平洋問題が主要テーマとして話し合われた。
- ・海軍軍縮条約では、主力艦（おもに戦艦）について米・英それぞれに対する日本の保有比率が6割に抑えられるとともに、米・英・日間で太平洋地域の島々で新たな要塞や海

軍根拠地を建設しないことなどが規定された。

- ・同条約に基づいて、奄美大島の陸軍の要塞工事は火砲を据え付ける前に中止となつたが、1923（大正 12）年に陸軍の奄美大島要塞司令部が設置された。

5、国際協調体制からの離脱と要塞建設の再開

- ・1931（昭和 6）年の満洲事変後、日本は国際協調体制から離脱を始めた。
- ・陸軍の奄美大島要塞でも、条約違反（新たな建設）とみなされないように「改築」「補修」「災害復旧」等の手段で、弾薬庫などの整備が進められた。
- ・1933（昭和 8）年には、日本は、国際連盟からの脱退を通告した。
- ・1934（昭和 9）年には日本は、海軍軍縮会議からの脱退も通告、1937（昭和 12）年から国際的な条約に縛られず、自主的に艦艇を建造したり、奄美大島を含む日本領の太平洋の島々で要塞の建設を進めたりすることが可能となつた。
- ・1937（昭和 12）年 7 月から日中戦争が始まった。
- ・1939（昭和 14）年 9 月ナチス・ドイツによるポーランド侵攻をきっかけに、ヨーロッパで第二次世界大戦が勃発した。ドイツ軍が欧州を席巻すると、日中戦争の泥沼化に悩む日本では、ドイツと組むことにより、東南アジアへの進出を強めようとする動きが高まり、1940（昭和 15）年 9 月には日独伊三国同盟を締結。
- ・米英との関係はいっそう悪化した。
- ・この年に陸軍の奄美大島要塞でも、一部の砲台に火砲が設置されている。

6、日米開戦と奄美大島の防備強化

- ・日本の南進政策により対米関係が悪化するなか、奄美大島の防備も強化されていき、1941（昭和 16）年には陸軍の要塞重砲兵連隊が編制され、海軍の水上飛行機用基地、根拠地隊が設けられた。
- ・開戦後、奄美大島の基地と部隊は、大島海峡の防備、海上交通の安全確保に任じた。
- ・1944（昭和 19）年には、奄美大島に水上・水中特攻隊も配備され、陸上部隊も増強された。
- ・その後、米軍機による激しい空襲下で、近い将来の米軍の上陸を想定した陣地の構築や訓練を行っていた。加計呂麻島の海軍の震洋隊には、のちに作家となる島尾敏雄もいた。
- ・奄美大島に米軍が上陸する前に終戦となつた。

まとめ

- ・「奄美大島要塞跡」から、近代史の各時期における世界の重要な動き、日本の国際関係・戦争を考えることができる。

【参考文献】

- ・瀬戸内町教育委員会編『瀬戸内町文化財調査報告書第 7 集 瀬戸内町内の遺跡 3 一奄美大島要塞跡及び大島防備隊基地跡 内容確認調査編一』(瀬戸内町教育委員会、2022 年)